

令和7年2月13日

令和6年度 第3回岡山県健康の森学園支援学校 学校運営協議会 議事録

令和7年2月3日 10:00～11:40 会議研修室

進行:上野副校長

記録:杉山

参加 22 名:運営委員 13名出席(宮崎委員 1 名欠席)、学校職員 9 名出席

1 開会

○岡本会長挨拶

今年度最後の運営協議会になりましたが、今年度は新見公立大学との研修なども実施でき、学校間の連携を行うことができた。次年度に向けて、忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

○定久校長挨拶

学校経営計画を元に、また、第1回学校運営協議会での意見を取り入れ、取り組みを行ってきた。冬の季節になり、雪あそびやそり遊びなど本校の豊かな自然の中で行う学びができた。本校のよさを全県にアピールしていきたい。

2 議 事（進行:岡本会長）

(1)令和6年度の取組状況と次年度への課題について」学校より説明及び報告

①令和6年度学校自己評価について（定久校長）※別紙 資料 p11～12

保護者アンケートについては、回収率98%だった。「E わからない」の項目を R5 年度と比較するために、表の割合に入れていない。すべての項目で肯定的な意見が90%以上の評価していただいた。特に、「専門的な立場からの子どもへの支援」が昨年度より5%以上評価が上がり、教職員が専門的なスキルを身につけ、指導・支援にあたっている様子が保護者に評価されていることがわかった。

課題として、「E わからない」という項目が、令和5年度3～4項目だったものが、令和6年度は7～8項目になった。理由として、SNS や HP での情報発信が十分に行えてなかったことや、さくら連絡網による各種たよりの文章配布で、保護者に十分情報が伝わっていなかったことが挙げられる。

また、「学部と寄宿舎との連携がとれている」という項目について、学校と寄宿舎との連絡の行き違い等の課題があり、保護者に不信感をもたれることがあった。現在は、学校と寄宿舎の連絡が密にできる体制をとれるようにしている。

教職員アンケートについては、3項目について1肯定的な意見が100%であった。しかし、「危機管理体制の整備」については令和5年度より5%以上評価が下がった。無断外出等があり、危機管理体制について再検討、対策を行ったことが挙げられる。

課題として、「教育条件（施設、設備、備品等）の整備」が挙げられている。設備の老朽化、教室等の不足はいかんともしがたい状況だが、修繕、補修等で対応はできている。また、「校務分掌の組織的運営」については、負担の軽重があるのではないかという意見がある。分掌の連携班を活用し、分掌間の負担を平滑化できるようにしていきたい。

（山本委員）「わからない」項目を集計に入れていないため、一見、高い評価が見られる。しかし、分母が小さい集団のため「わからない」方の人数をしっかりと見ていく必要がある。何がわからないのか、実態把握をし、

次年度に活かしていくことが大切である。

②令和6年度の進路状況調査について(田野高等部校務)

令和4年度から令和6年度(予定)の卒業後の進路状況について報告

③学校経営について(定久校長) ※別紙 資料 p1~10

教育充実推進プロジェクトの概要を説明

○キャリア発達

・広大な自然環境を生かした学習活動ができた。

○教職員の専門性の向上

・防災意識の高揚と危機管理体制の見直し

⇒・新見市における本校の果たす役割を確認することができた。

・今年度より、備蓄品を1日分から3日分に変更。

○連携による指導支援の充実

・訓練班における事例検討会を実施した。

・交流及び共同学習において、高等部の交流は、交流校との交流時期、内容等について検討する必要がある。

○情報発信とセンター的機能の発揮

・学校説明会に参加した22組のうち、7組が学校公開に参加した。

○働き方改革と同僚性のある職場

・ICTを活用した業務の効率化(さくら連絡網)

・WLB(ワークライフバランス)を意識した働き方の取組

児童・生徒数の確保のため県南を会場に学校説明会を行ったり、SNSを活用し情報発信をしたりした。次年度は学校説明会を行わないが、引き続き情報発信を行っていく。

また、寄宿舎の児童・生徒の推移について、義務教育の児童・生徒数が非義務教育の生徒数を上回ることから、寄宿舎での指導内容について検討していく必要がある。令和7年度の学校経営計画(案)として、自然体験活動、農・福・学連携、教職員の指導力向上、新たな情報発信の4つを柱に、健康の森学園ならではの教育活動を行っていく。

④ 事務局からの報告(上野副校長)

○地域連携の取組

地域連携室が地域人材とつなげた、地域ボランティア活用の紹介。

令和6年度、17回実施(令和6年4月~令和7年1月末)

○学校施設

・寄宿舎の改善に向けて

・寄宿舎の老朽化にあたり、特に女子棟共有スペース(玄関前の廊下スペースを利用)、男子棟お風呂場(タイル張り)で冬場は寒く、安全面で問題がある)

⇒次年度以降に向けて、改修していく。

○来年度のプール使用について

「げんき広場にいみ」のプールを使用する方向。理由については、プールの修繕に膨大な費用がかかること、学園内の大量の水使用によって、水問題解決のため。

⑤ 地域協働活動・地域貢献活動・豊かな自然を生かした教育活動（鈴井総括教務）

第2回学校運営協議会以降の、成果と活動を報告。

（中学部）健森マップ（別紙）の作成。パネル大のマップをちらしにするにはどのようにするか、生徒自身が考えて作成した。完成したチラシをアンテナショップ「森のおみせ」でお客様に配布することができた。成果としては、健森マップの作成を通して、地域ボランティアの活用や身近な自然の観察をすることができた。新見高校との学校間交流で木製ベンチを作成し、ネイチャートレイルへ設置した。この活動を通して、自然環境整備への意識付けができた。

課題は、さらにこの資源を活用する手立てが必要である。自然環境の整備の経験をさらに積んでいくための手立てが必要である。

（寄宿舎）地域ボランティアの活用と、学部教員の協力により、芝生広場で寄宿舎フェスタを開催した。成果は、広さを活かした活動ができるブースを工夫することで、これまでは取り組むことが難しかった舎生全員での自然の中でのダイナミックな活動や、野外コンサート、キッチンカーの利用など、新しい経験をすることができた。また、保護者アンケートは満足度が高い記述が多く、来年度以降の継続の要望も上がった。

課題として、舎生の主体的な活動が増えるように、ブースの内容や地域ボランティアの依頼など、活動の精選を行う。学校の敷地から少し離れるため、準備等で職員の負担感があり、負担軽減や安全面への配慮など検討が必要となる。

⑥ 各分掌の取組（鹿島小中教頭）

○学校保健、医ケア

・学校保健委員会を年2回実施。（2回目は実施予定）今年度より、PTA 研修部との開催。1回目は、12名の保護者が参加した。

・医療的ケアの実施について看護師2名、経管栄養の日常ケアを行った。避難訓練のなかで、緊急時の対応について職員で確認することができた。

○研究

・研究主題を基に、授業研究等各学部で行うことができた。教育センターの研究支援を活用し、講師の方から助言、指導を行っていただいた。

○研修

・OJT 研修では、岡本委員長（新見公立大学教授）に来ていただき、事例検討会を行うことができた。専門的見地からアドバイス、指導をいただく、専門家活用研修も行うことができた。

○学校安全（防災）

・「いじめ対策委員会」を「いじめ・虐待対策委員会」に名称を変更し、児童虐待への対応マニュアルを作成した。

・強度行動障害をはじめ、特に配慮・支援が必要な児童生徒に対して適切な支援ができるよう研修し、専門性の向上に取り組んだ

○巡回指導（エキスパート派遣）

・各校の要請に応じ、職員を派遣することができた。高等学校を中心に就職、進学に関する巡回指導、特別支援教育に関する職員研修を行うことができた。

○PTA（PTA 活動、組織等の見直し）

・保護者、教職員の負担軽減のために活動、組織の見直しを行っていく。

「協議及び意見交換」

協議テーマ『来年度の取組を充実させるために』

テーマについて3グループに分かれて、協議及び意見交換を行う。

【A グループ】○広大な自然を生かした教育活動（地域との連携）の充実
○地域ボランティア登録の充実

（山崎主幹教諭）ボランティア登録数が増えていない。どのような方法を取れば増えていくか。また、ボランティアを広げていくことも大切だが、ボランティアの内容を深めていきたい。

（千種委員）健康の森学園には、自然を含めた多くの素材がある。それらを活かして、観光農園ができるといい。児童・生徒が作った農産物の収穫体験などを行うことで、健康の森学園の PR につなげたり、児童生徒自身が、収穫の喜びを得たりできる。また、販売学習を通じて、接客等の社会学習を行う場となる。

（赤木委員）テレビ番組で「里山再生」を高校生が行う番組を行っていた。何かテーマをもつことで、ボランティアの方も協力しやすいのではないかな。

健康の森学園は、交通手段や立地等で不便なところもあるが、便利なところに負けないものをたくさん持っている。

（若林委員）寄宿舎の経験は、今後の生活の中で生きていく。送迎などの保護者の負担も大変だが、色々なことに挑戦できる。プランを実施するためには、予算が必要になってくる。

（赤木委員）健森応援団の団費を有意義に活用していただきたい。

（名越委員）高齢化で地域も農業ができない方が増えてきている。子どもたちに農業を教えてくれるボランティアがいらっしゃるのではないかな。

（山崎主幹教諭）ボランティア募集を Google フォームで行ってみたが、登録がなかった。SNSで募集を呼び掛けてみる方法もある。

（若林委員）SNS、ちらしでの募集を両方行った方がよい。年代に応じて、登録しやすいよい方法でできるとよい。

（赤木委員）「健森」なら、何にでもチャレンジできる土壌があり、その資源も豊富にある。

（名越委員）今年度、舎フェスタを開催したが「健森」ならでは。地域の方とのつながりも感じる事ができた。

（上野副校長）ボランティアの方々の力で、できることの幅が広がってくる。今後も、地域の方とのつながりを大切にしながら、ボランティア活動を深めていきたい。

【B グループ】○地域の教育機関、学校と連携した教育内容・教育支援のさらなる充実

（中川委員）寄宿舎については、本校は、「寄宿舎なくして健森なし」というくらい、この学校については大事だと思う。また、県内に知的障害教育の特別支援学校が 10 校あって、その中で県立ではなく「岡山県」ということで名前が付いていて、しかも、全県学区というので、もっと独自性を発揮する必要があるのではないかな。教育内容にしても教育課程にしてもそう。また、児童生徒一人当たりの職員数が多いと県教委からも聞いているが、そういうところを踏まえた充実ができるような取組をできればいいと思う。

（鈴井総括教務）本校の独自性ということで、ほかにご意見がありますか。

（中川委員）独自性はあると思う。先ほどの寄宿舎の件についても、県と話しをしていくということで。

（定久校長）寄宿舎の風呂と女子棟の集会場所については、県教委と話がついている。

（岡本委員長）地域の教育機関や学校と支援学校の連携というか、継続してできるといいと思う。今年度は、私も何回も来させていただいて、12 月には特定の事例で上がっていたお子さんについて研修できたの

は、すごく価値があると思った。

昨年度、市内の小中学校の先生、管理職に発達障害に診断されている、あるいはそういったニーズのある子どもがいるか聞き取り調査をしたが、センター内機能を活用していると回答された先生はおられなかった。これは非常に残念なことで、ニーズの高いお子さんが市内の小中学校にたくさんいて、その指導に苦慮しているということで、大学としても連携をしだしてきたところだが、健康の森も連携できるというかと思う。

(鈴井総括教務) 中学校との交流をしているが、令和5年度までは年2回の恒例だったが、なかなか総合的な学習の時間の確保が難しくなってきた、1回になっている。

(山本委員) 交流するとなると、事前準備とか振り返りとか必要になる。1時間 2時間の交流で実際には4時間。それを2回で8時間あるので、なかなか難しい。できたら、中学校としては、支援学級がある学校、無い学校あるので、同じ学年(155人ぐらいしかいないので)を集めてもいいかと思う。真のインクルーシブ教育を目指すためには、こういう子どもたちもいるということを知ってもらわないといけない。この自然豊かな場所で、一緒にウォーキング大会などを開催して、一緒に歩いてみる経験を試してみる。それが一番のとりかかりではないかと思う。

(鈴井総括教務) 市内の全中学校参加で合同交流会の開催は可能ですか。

(山本委員) バスと日程調整ができれば可能。活動内容を考える必要がある。

(定久校長) 中学校の交流の件は、話を進めていってもよいでしょうか。

(山本委員) はい。交流は、同じ所にいないと意味がないと思う。支援学級がないと、そういう子どもについて、やはり実際にふれ合っていないと本当には分からないと思う。

(鈴井総括教務) 今年度、中学部は、ネイチャートレイルにベンチを高校生と一緒に作って運ぶ交流をした。その中ですごくコミュニケーションできて、良い交流になった。どうコミュニケーションをとうろうかと高校生の方がしっかり考えてくれて、本校の生徒は自分の意見や気持ちがスッと出せるような感じで交流ができた。

(山本委員) 交流の一番の問題はバス代などの輸送についてだと思う。

(長谷川委員) バス代については、交流のバス代として年1回教育委員会から、支出していただけたらと思う。

(中川委員) 「ふるさと学習」という項目で出ると思う。調べてみます。

(鈴井) そこと日程調整とできれば、実現の可能性は十分ある。

(山本委員) 交流のゴールはインクルーシブ教育にあると思う。私は、一般の中学校なので、その生徒がまず理解するには、実際にふれ合ってみたり感じたりしないと分かりにくい。障害のある方は、人それぞれによって違う。その理解が実際の交流だと思う。

(鈴井総括教務) 研修を通した先生方の交流としては、本校の校内研修を公開することは可能でしょうか。

(定久校長) 情報提供させていただいて、もし時間が合えば来てください、ということになると思う。1回公開授業を見に来ていただいて、ほかの先生方に広げていけたらいいのではないかと。

【C グループ】○健康の森学園支援学校を広く知ってもらうために、企業と学校が連携してできること。

(大倉教頭) 前回以降の新たな連携として、インスタ開設、さつきやさんとのコラボ商品の開発、先日は商工会議所による見学などが挙げられる。

(田中委員) 商工会議所のサイトへアクセスするのは言っても一部の人々しかいない。3月の総会で紹介しようと思う。まずは、企業に健森のことを知ってもらわないといけない。メンバーは30~40人。会社で言うところの500社ほどある。来年度は、そのような方々を連れ学園見学をする。

(山田委員) 新見市の一般企業には施設からも20名ほどお世話になっている。施設の進路係も参加させてほしい。

(守谷委員) 職業安定所でも、企業からすると障害者雇用について何をきっかけにしたらよいか分からない実情がある。6年度は障害者雇用についての研修を行った。

(田中委員) SNS 以外での周知の仕方は。

(大倉教頭) 学園からの便りを役所等へ配布、アンテナショップ等。

(山田委員) 一日平均57名。固定客あり(来る人が限定される)

(佐藤委員) にいみ(アイ)チャンネルは新見の人が見るが広告有料。取材なら無料。

(山田委員) 記念イベントには民放。野菜の販売は商品の安定確保が難しいのが課題。

(田中委員) 足りないくらいで良い。石けんももう少し高くても良い。

(佐藤委員) よく落ちるが、主婦としては使いづらさがある。

(大倉教頭) 企業とのコラボ商品が夢。具体的にどういった企業さんと関われるか。

さつきや・・・クッキー

(山田委員) 以前は、牛井のレトルト商品化の話が合ったが、やはり安定供給の壁があり頓挫。

(田中委員) デイリーフーズ(食品加工・販売)。健森から仕入れて販売できる。

企業と商品とのマッチングの場を設ける。どんな商品を売り込みたいか。接触の頻度を増やす。キャラクターもの。販売の場も農協に限ったことなく、SNS で発信後、芝生広場で行う等。

(山田委員・大倉教頭) 森の駅構想、管理棟があるが使っていない状況。

(田中委員) 人が来れば、市へ整備等を要望できる。

その後、A グループ(山崎主幹教諭)、B グループ(安原小教務)、C グループ(大倉教頭) が協議した内容を発表し、情報共有する。

3 諸連絡

(上野副校長より) 令和7年度 第1回学校運営協議会 令和6年5月26日(月) 10:00~12:00開催予定

4 閉会挨拶(名越副会長)

前向きな意見がたくさんあり、保護者としてワクワクしました。今後とも学校が元気になっていくためにお力添えください。